

上アイヌの文化にふれる

9月13日、今年度第2回の大雪山フォーラムを開催しました。旭岳青少年野営場では、川村カチ子トアイヌ記念館のみなさんによるカムイノミ（神への祈り）やムックリや民族舞踊を披露。旭岳ビジターセンターでは、日本遺産に認定された「カムイと共に生きる上川アイヌ」について詳しく解説。上川アイヌとは神居古潭より上流に住むアイヌのことで、かつては右狩川の恵みを受けて巨大な集落がありました。今も残る神々の伝説は、川を交通網にしていたアイヌの丸木舟から見た視点から生まれたものも多いそうです。



▲菅原監督(右)が制作中の映像の一部

寺口一孝氏による「アイヌ語地名説明会」では、アイヌ語と日本語で2つ以上の名前を持つものが多い北海道の山の面白さを紹介。一番多いのは道南の駒ヶ岳で、なんと9つもの名前が。映画写真甲子園の監督でもある菅原浩志氏とアイヌ記念館の川村久恵副館長の対談では、歌詞を聞くだけで情景が浮かぶアイヌの歌や、それぞれが自分のメロディーを持ち、そこに即興で歌詞を載せていたアイヌの豊かな文化についてトーク。菅原監督は現在、アイヌの映像を制作中。「多くの人にアイヌを知ってもらえる作品にしたい」と、来年3月ごろに公開予定です。

愛山溪に生きたる植物たちを学ぶ

10月10日、せんとびゅあにて大雪山アーカイブス講演会を開催しました。今回は「私のフィールド・ノート」と題し、旭川実業高校の国語科主任・岡本敦子氏に愛山溪（上川町）の高層湿原植物や風景についてお話しいただきました。この講演会のために「沼の平湿原」と「雲井ヶ原湿原」で撮影した写真や映像を豊富に使って、そこに息づく植物たちについて解説。ダケカンバ、ワタスゲ、ミスゴケ、タチギボウシ。時にスタジオアプリの『風の谷のナウシカ』や『もののけ姫』などに例え、その環境をイメージしやす



▲ミツバオウレン。白い部分は花ではなく萼(がく)

出！に舌鼓を打つ。トークセッションでは、北の住まい設計社（東7号北）の渡邊恭延社長が「次の世代のために地球環境を考えることを世界に発信していく」という理念を大切にきたお話を通してこの町の文化の根幹を学ぶ。目で見、舌と鼻で味わって、文化を通して考えて、目一杯この町の環境の素晴らしさを味わえる、多様性に富んだお祭りでした。このイベントは来年も秋頃に開催予定。公式FBをチェック！



新しい風景をニューホライズン

9月21日、「NEW HORIZON」 a small gathering in HIGASHIKAWA（ニューホライズン）がキトウシ森林公園で初開催されました（同実行員会主催）。このイベントは「東川らしい暮らし」をテーマに、開放的な自然の中で音楽と地元食材、町を育んできた文化を体感する。そんな1日。ワークショップで大型アナログカ

メラのフラインダーに浮かび上がる美しい世界を体感したり、場内に流れる陽気な音楽に耳を傾け、バンド演奏で盛り上がった。子どもも大人もスケートボードやスラックライン（ベルトの上でバランスを楽しむ遊び）、トランポリンで体を動かし、お腹が空いたら町内人気飲食店のオリジナルメニュー（早々に売切続

音楽のひととき

9月22日、小西健二音楽堂にて12回目となったドットレミシーの定期コンサートを開催しました。



▲奥田さん(左)と持田さん(右)

前半はゲストのマイトリの2人によるステージ。唄うたいの奥田さんやさんとシンガーソングライターの持田陽平さんのユニットで、「マイトリ」はサンスクリット語で「思いやり」を意味します。その名の通り、聴けば自然と元気が湧いてくる明るい歌声にのった歌詞がスツ...と体に沁みできて、表情や視線、手振りでも豊かに心が伝わってきます。その歌声と優しいギター音色、絵本が融け合って、なんだかとてもリラ

ックとした心地。後半はドットレミメンバーとして竹山恭平さん（キョんちゃん）が登場。亀の甲羅のような大きな金属製の楽器・ハンドパンの登場に、思わず目を丸くして注目してしまいます。手が当たる「ペシ」という音と金属の内側で反響することなくエスニックな音が同時に聞こえてきて、不思議と引き込まれていきます。まるで優しい雨が降っているように、想像以上にさまざまな音色が奏でられる驚きもあります。毎回ゲストによって表情を変え

自然の恵みを大切に、日々の生活を楽しむ

7月〜10月に月1回、北の住まい設計社（東7号北）で行われたファーマーズ・ガーデン・マーケットは、「食と農」を軸に、生産者自ら販売する野菜、食や生活を豊かにするアイテムが揃うマーケット。「人と自然が共存・共生できるよ

うに、農業やモノ作りを続けている人たちの輪を広げ、次の時代につなげていきたい。思いを共有できる仲間たちとの出会いを大切に、輪を広げたい」との思いから始まっ



▲黄色も白もにんじん。食卓がより彩り豊かになりそう。

声をヨロコブ=元気な声

10月3日の第13回定期コンサートは、秋らしい紅葉の背景に会場が「わぁっ」と沸き立つところから始まりました。この回のゲストはボイストレーナーの古屋みづ恵子さん。「ボイトレは声を気持ちよく出すためのウォームアップだから気分わずに」と来場者と一緒に「ちょっと練習。やり方を紹介しますが、誰も見ていない所でするのをオススメします。①鼻から息を吸いながら、肩を耳に近づける（できれば肩を後ろにそらす）。内臓も全部持ち上げるつもりで、息を吐きながらス



▲古屋さん(左)と一緒に右腕で天を突く!

トんと落とす。②続いて声の出口である顔のストレッチ。目をしっかり開き、眉毛を上げて鼻の穴と口を大きく開け、ついでに舌を出す。耳の穴を外に向けるイメージで開いた後は、逆に顔の中央に全部のパーツを全て集めてひよっここみみたいな顔に。これを数回繰り返す。③お腹の底（みぞおち）から息を吐き出しながら大きな声で「HEY!」...こうして歌うための筋肉と緊張をほぐしてから、『与作』の「ふへいへい」をコール&レスポンス。この回のコンサートは「声を出すことは元気になること」を体現するかのようでした。今月の定期コンサートは21日(日)開催予定。予約受付中です!

た朝市です。今年の最終回は10月18日で、天候にも恵まれた多くの人が来場しました。冬の備えのための根菜や新米をはじめ、丁寧な手仕事でつくられた加工食品や保存食、室内を華やかにしてくれる蜜蝋キャンドル、町内飲食店が提

供するおいしい料理などなど。お茶目なテーブルゲームもあり、子どもたちも笑いながら遊ぶ、緑に囲まれた開放的な市場でした。この地で暮らす人々の「生活」と真剣に向き合ってきた北の住まい設計社らしい朝市は、来年も開催予定。日程は同社HPの公式インスタグラムをチェック!